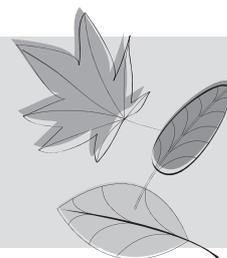


平塚協会報

発行所 公益社団法人 神奈川労務安全衛生協会 平塚支部 発行責任者 五十嵐 富士夫

平成26年度 全国労働衛生週間を迎えて

平塚労働基準監督署長 太田 真人



全国労働衛生週間は昭和25年の第1回実施以来、今年で第65回を迎えます。今年度も10月1日から7日までの本週間に、

「みんなで進める職場の改善

心とからだの健康管理」

をスローガンとして、事業場における労働衛生意識の高揚を図り、自主的な労働衛生管理活動を通じて、労働者の健康確保の一層の促進を図ることとしています。

さて、神奈川労働局管内の労働衛生の現状を見ますと、職業性疾病の発生件数は長期的には減少傾向にあります。熱中症や化学物質との接触による死亡災害は依然として発生しており、一酸化炭素中毒による重大災害も後を絶ちません。

また、平成25年における一般定期健康診断の結果、脳・心臓疾患など、いわゆる「過労死等事案」につながる各項目をはじめ、何らかの所見を有する労働者の割合は53.2%で、依然として全国平均を上回り、労働者の過半数が有所見という状況です。

このような状況の下、平成25年の脳・心臓疾患による労災請求件数は62件で、前年より4件、7%増加しました。

メンタルヘルス関係では、平成24年に厚生労働省が実施した「労働者健康状況調査」の結果によると、メンタルヘルス不調により連続1か月以上休業又は退職した労働者がいる事業場の割合は8.1%となっており、神奈川労働局管内においても、平成25年の精神疾患による労災請求件数は

133件で、前年より42件、46%増加しました。

一方、全国的には、一昨年に社会問題化した印刷事業場における胆管がん発症問題を契機に、有機溶剤などの化学物質取扱い業務について、労働衛生上の管理の徹底があらためて求められています。

こうした状況に対応するため、6月25日に改正労働安全衛生法が公布され、①一定の危険性・有害性を有する化学物質のリスクアセスメントの実施、②労働者に対するストレスチェックの実施、③事業者及び事業場の実情に応じた適切な受動喫煙防止対策の努力義務などが、平成28年6月までに順次、施行される予定です。

また、2年目に入った神奈川労働局の第12次労働災害防止推進計画における健康確保・職業性疾病対策においても、「化学物質による健康障害防止対策」、「メンタルヘルス対策」、「過重労働による健康障害防止対策」などを重点対策として掲げ、それぞれの目標達成に向けて取り組んでいるところであり、各事業場におかれましては、「労働衛生管理体制の確立とリスクアセスメントを含む労働衛生管理活動の活性化」、「メンタルヘルス指針に基づくメンタルヘルス対策の推進」、「健康診断結果に基づく保健指導や事後措置の適切な実施」に注力いただくことが、労働衛生管理の上でますます重要になってきています。

この全国労働衛生週間を契機に、職場のトップ、管理監督者、産業保健スタッフ、そして労働者の皆様がそれぞれの立場において、労働衛生活動にお取り組みいただき、自主的な労働衛生活動の一層の促進を図ることをお願い申し上げます。

平成26年 労働衛生週間スローガン**みんなで進める職場の改善 心とからだの健康管理**

労働衛生週間平塚地区促進大会

平成26年度「第65回全国労働衛生週間平塚地区促進大会」は、『みんなで進める職場の改善 心とからだの健康管理』のスローガンのもと、去る9月5日(金)平塚市中央公民館大ホールにおいて開催されました。

全国労働衛生週間は、国民の労働衛生に関する意識を高揚させ、事業場における自主的労働衛生管理活動を通じ、労働者の健康確保に大きな役割を果たしてきたところで、昭和25年から実施され本年で第65回を迎えることとなりました。

大会は、平塚労働基準監督署 太田署長による開会の辞から始まり、平塚市落合市長の祝辞へと続き、平塚労働基準監督署 田代安全衛生課長による衛生週間の趣旨説明が行われました。続いて、日本労働安全衛生コンサルタント会 専任講師矢崎ますみ様より受動喫煙防止セミナーが行われました。

その後、第二部として災害防止4団体共催の「第58回平塚地区安全衛生大会」が、今年度は(公社)神奈川労務安全衛生協会平塚支部 田中支部長の開会挨拶で開催されました。

事業場並びに地区の安全衛生活動の推進に尽力された方々に対して、各団体長より「安全衛生推進優良賞」の表彰が行われました。今年は平塚支部として、21名の方(被表彰者は次項)が受賞されました。おめでとうございます。



引き続き、建設業労働災害防止協会 神奈川支部平塚分会 武井副分会長より「大会宣言」が行われ、参加者全員により確認されました。

休憩をはさみ、特別講演として「家庭も職場も明るくなるハッピーコミュニケーション法」と題してヒューマンヘルス研究所所長の阪口由美子様より誰もが元気になるコミュニケーションについて講演がありました。

最後に平塚地区食料品製造業労働災害防止対策推進連絡会議 宮本会長の閉会の挨拶により、本大会を終了いたしました。

(株)ショーワ精工 青木 記

神奈川労働局長奨励賞受賞

去る7月4日(金)メルパルクYOKOHAMAにて、平成26年度神奈川労働局安全衛生表彰式が行われ、平塚支部からコバレントマテリアル(株)秦野事業所殿、日本エレクトロプレイング・エンジニアーズ(株)殿の2社が神奈川労働局長奨励賞(安全確保対策)を受賞されました。この賞は、安全に関する水準が良好で改善のための取り組みが他の模範と認められる事業場に対して授与されるものです。コバレントマテリアル(株)秦野事業所は、人工骨補填材、生体適合性セラミックスの開発と製造、シリコン部材やセラミックフィルターの製造を行っている事業場で、労働安全衛生マネジメントシステムの導入、年齢経験階層ごとの安全衛生教育、独自活動の「ヒヤリハット・キガカリ活動」等が評

価されたものです。日本エレクトロプレイング・エンジニアーズ(株)は、メッキ液及びメッキ装置製造販売事業の内、原材料調合、性能検査、梱包・出荷を行っている事業場で、安全衛生環境対策推進室の設置、OHSAS18001の認証取得、ヒヤリ・ハット提案に対する褒賞・表彰制度、労使協調、協力した取り組み等が評価されたものです。

両社の今後一層の安全確保対策の推進を祈念致します。受賞、おめでとうございます。 事務局 記



「JFEスチール工場見学と産業保健活動委員会」について

関西ペイント(株)平塚事業所 土肥 久美

JFEスチールの工場見学会を7月4日に実施しました。全体の流れは広報部会の成田さん(山川機械製作所)の記事をご覧ください。

今回主催した支部産業保健活動委員会(以下、産保)は衛生部会の下部組織で、産業保健に関わる看護職等の専門職を中心に構成され、委員長・本部委員と委員長経験者の数名は衛生部会の部会員も兼任しています。なので、衛生部会主催の講習会にも産保メンバーの意見が反映され、産保と衛生部会とは互いに協力して運営しております。その中でも今回は思い入れのある見学会でした。実は3年前に日時も決めて、当時の委員長の中野さん(田中貴金属工業)を中心に話しを進めていましたが、東日本大震災の影響で中止せざるを得なくなり、3年越しで実現できたためです。通常の見学コースの他に、産保メンバー矢崎さん(Y.カノ

ン)の伝手で診療所(京浜保健センター)に移動して、センター長の村上産業医から、健康診断、保健指導や相談、教育(各年齢層・メンタル・熱中症等)、健康増進活動(参加型の健康力アップ活動)、職場巡視(熱中症対応含む)、受動喫煙防止対策と禁煙活動、職業性ストレス簡易調査表でのチェックと結果への対応、退職者の復職判断から復職者へのフォロー等、具体的な話を伺う事ができました。印象に残ったのは、退職中の労働者本人・主治医・会社・産業医の関係です。それぞれの役割を明快に語って頂き「会社(産業保健職)は治療の当事者では無い。休業者と関わった場合は、経過と結果を主治医と共有すべき」事を再認識しました。

工場見学会を運営していただいた委員長の伊藤さん(古河電気工業)と、サポート役の本部委員の金田さん(日産車体)に感謝します。

平成26年度 第58回 平塚地区安全衛生大会 被表彰者名簿

(公社) 神奈川労務安全衛生協会 平塚支部長表彰

(敬称略)

◎：表彰代表者

事業場名	被表彰者名	事業場名	被表彰者名
守山乳業 株式会社	渡 部 佑 美	高周波熱錬 株式会社 湘南事業所	大 村 健
日産車体 株式会社	勝 野 健 一	高周波熱錬 株式会社 湘南事業所	瓜 生 純
日産車体 株式会社	鶴 淵 信 幸	株式会社 ショーワ精工	小 澤 哲 也
日産車体 株式会社	鹿 倉 巧	佐藤産業 株式会社	松 本 直 広
横浜ゴム 株式会社 平塚製造所	今 原 立 郎	株式会社 コベルコ マテリアル銅管 秦野工場	木 本 達
横浜ゴム 株式会社 平塚製造所	秋 野 均	コバレントマテリアル 株式会社 秦野事業所	関 野 裕
株式会社 フリーデン	奥 田 泰 士	日発精密工業 株式会社	藤 川 高伊智
三興製鋼 株式会社	野々部 ひとみ	和栄工業 株式会社	佐 藤 志 津
高砂香料工業 株式会社 平塚工場	赤 石 直 樹	桐栄工業 株式会社	川 口 定 信
日本クロージャー 株式会社 平塚工場	菅 原 勝 則	関西ペイント 株式会社	◎的 場 隆 夫
三井工業 株式会社	薄 葉 雄 輝		

2014年9月9日～9月10日開催 安全衛生推進者養成講習会を取材して

今年2回目の「安全衛生推進者養成講習」は豊かな経験をお持ちの、三瓶裕二講師と矢崎ますみ講師。具体的事例の多い講習でした。

今回の講習では33名の参加者を集め、そのうち13名が労安協会員以外の事業所からの参加でした。この地区での関心の高さがうかがえ、平塚労基署、労安協平塚支部の日常的な啓蒙活動の成果と言えます。

安全衛生推進者は、安全衛生に関して広範囲な知識が必要になります。そのため、2日間で合計10時間の講習を受け、最後に修了試験を受けます。初めて安全衛生に関わる方にとっては覚えることが非常に多く、大変な2日間だったと思います。

講習のなかでは「エスカレーターをなぜ歩いてはいけないのか」「フォークリフトでの後方確認の方法」「回転ドアの死亡事故で生かされなかったヒヤリハット」など、具体的な過去災害の事例でわかりやすく説明され、受講生は熱心にメモを取っていました。

9月には、名古屋の事業場で15名が負傷する爆発事故が報道され、原因としてベテランの技術や技能の伝承問題、

設備の老朽化が指摘されています。安全技術の継承は事業場の大きい、小さいに関わらず最優先で取り組むべき課題です。この2日間学んで帰ったみなさんが、各事業場で安全衛生活動の先頭に立ち「安全第一」の浸透活動に汗を流す様になって欲しいと思います。日鍛バルブ(株) 伊藤 記



■労働災害発生状況 (労働者死傷病報告件数)

(平成26年8月末現在)

		製造業	建設業	運輸業	陸上・港湾貨物 運送・取扱業	その他	計
平 塚 労 働 基 準 監 督 署	平成26年1月～8月 うち死亡災害	63 1	31 0	13 0	25 0	122 0	254 1
	平成25年 うち死亡災害	82 0	49 1	24 0	57 0	218 0	430 1
	平成24年 うち死亡災害	99 0	74 0	20 0	53 0	209 0	455 0
神 奈 川 労 働 局	平成26年1月～8月 うち死亡災害	634 6	474 9	201 0	510 3	1916 2	3735 20
	平成25年 うち死亡災害	1035 5	871 13	350 2	835 4	3394 20	6485 44
	平成24年 うち死亡災害	1126 13	907 16	361 0	860 4	3435 13	6689 46



雑感 『私の癒しの時間～いい湯だな～』

三菱樹脂(株)平塚工場 片岡 浩

10年位前になりますが、仕事で全国の役所を回っていたことがあります。特に西日本についてはほとんどの役所を訪問しました。大体車で回っていましたので、山の中の道路で蛇や鹿と遭遇したり、車1台がぎりぎりの山道を落ちないかひやひやしながら通ったりと貴重な体験をさせていただきました。

そんな地方に行くときの楽しみは、その地方地方でのおいしい食べ物と温泉でした。食べ物もB級グルメが中心でしたが、その地方でしか食べられないものを体験することができ良かったのですが、それよりも宿泊先でたくさんの温泉に入ったことで大の温泉好きになりました。私の好きな温泉は、にぎやかな温泉よりは秘湯のようなところで硫黄泉のような濁り湯が好きです。私が今まで入った中でランキングは、第3位は北海道の二股ラヂウム温泉です。

この温泉は、石灰華ドームとプールのような大きな浴槽が特徴です。第2位は、岡山県の湯原温泉です。この温泉は、露天風呂で西の横綱と言われておりダムの下流にある砂湯が有名です。第1位は大分県の別府温泉保養ランドの泥湯です。この温泉の泥湯は入ると硫黄の臭いが数日取れなくなる位強烈です。それぞれに思い出があり、また行ってみたい名湯です。今は地方に出張に行くことはほとんど無くなりましたが、神奈川県にも箱根など良い温泉がたくさんありますので休みには日帰り入浴に回っています。日々の生活の中ではストレスが溜まることが多いですが、温泉に入ると癒されてストレス解消になり、また明日も頑張ろうという気持ちになります。まだまだ行ったことのない名湯がたくさんありますので、温泉が体に染み付く位いろんな温泉に行きたいと思っています。

JFE スチール 工場見学会 開催される

さる7月4日(金)産業保健活動委員会主催による工場見学会が実施されました。

小雨降る中、13時に川崎駅前に参加者25名が集合。JFEのバスで工場に向かいました。

JFEスチール 東日本製鉄所 京浜地区は、川崎・横浜両市にまたがる東京湾に浮かぶ約550万平方メートル(東京ドーム120個分の広さ)の人工島、扇島にあります。

工場正門到着後、バスで、地下トンネルや湾岸高速道と平行に走ったりし、コミュニティーセンターにようやく着きました。早速、会社概要の説明をいただき、その後、再度バスにて広大な工場を見学しました。

高炉・転炉などの銑鋼部門、及び厚板・熱延などの圧延部門を間近に見ました。転炉では、煮えたぎる銑鉄をガラ

ス越しではありましたが、見て大変な迫力でした。

最後に、診療所を見学、診療所長より、「活動状況」「事前の質問事項」についての説明があり、17時にすべて終了し、JFEを後にしました。

(株)山川機械製作所 成田 記



編集後記

この号が発刊されるのは、全国労働衛生週間準備月間の頃かと思ひ、インターネットで、平成26年度全国労働衛生週間実施要領を検索いたしました。趣旨の中に、「我が国における自殺者は平成25年は前年から減少して引き続き3万人を下回ったが、約2,300人が勤務問題を原因・動機の一つとしていること、メンタルヘルス上の理由により休職や退職する労働者がいること、精神障害等による労災認定件数が平成25年も前年に引き続き400人を越えていること等から、職場におけるメンタルヘルスケア対策の取組みは依然として重要な課題であると掲載されておりました。

また、スローガンとしても、「みんなで進める職場の改善心とからだの健康管理」とされておりました。

そこで、過去のスローガンも確認いたしましたら、昭和43年頃より健康を主とした内容となっており、年々健康問題がクローズアップされるようになってきていることが分かりました。

メンタルヘルス問題についてですが、原因の一つとして、経済のグローバル化・働き方の多様化・成果主義等と聞きますが、私自身としては、人間関係が希薄となっていることが大きな原因ではないかと感じております。逆に言えば、人間関係が円滑になれば、メンタル問題は解決されるのではないかと考えております。

人間関係を円滑にすべく、「自ら気づく」「仲間に話す」「仲間のお話を聴く」を心がけ、また、実行し改善を図り、明るく楽しい毎日を過ごして参りましょう。

スタンレー電気(株)秦野製作所 石塚 記